

Rescue Station File

レスキューステーション・ファイル

file.3 ラグナマリーナ



ラグナマリーナは海上バース、陸上ヤード合わせて350艇分を確保する中部地域最大級のマリーナ。波穏やかな三河湾に面し、伊良湖水道まで足を伸ばせば大物釣りも楽しめる

伊勢湾に隣接し、知多半島と渥美半島に挟まれたような形の三河湾は、穏やかな海象に恵まれた内海だ。湾内には佐久島や日間賀島、篠島といったクルージングの目的地にはもってこいの島が点在しており、マリネジャーの好適地として発展している。

その東部の蒲郡市の沿岸にあるラグナマリーナは、海上と陸上に合わせて約350艇の収容規模を備える中部エリア最大級のマリーナである。同マリーナには大型ショッピングモールや

レストラン、テーマパーク、ホテル、スパ施設などが隣接し、週末ともなれば大勢の来場者で賑わう一大複合リゾートエリアを形成している。

また蒲郡といえば、かつて90年代から2000年にかけて国際ヨットレースのアメリカズカップに挑んだニッポンチャレンジのキャンプ地である。敷地内に92年の挑戦に用いられた実際のレース艇JPN-26が展示されていることからわかるように、ラグナマリーナは国内を代表するヨットレースの拠

点のひとつとして認知されているのだ。

そうした背景もあり6:4の割合でヨットがボートより多いという同マリーナの係留・陸置き艇だが、基本的にすべてがBANに加入済みであるという。そしてラグナマリーナ自体もBANのレスキューステーションとして登録され、地域で重要な責務を担っている。

同マリーナが受け持つレスキューエリアは三河湾内全域。三河湾は前述通り比較的静穏な海域だが、ヨットレースが盛んなことでも推察されるよう



マリーナの中核施設となるクラブハウス。風をはらんだセールをイメージしたデザインとなっている



1992年、アメリカスカップに初挑戦したニッポンチャレンジJPN-26を展示



美しく咲き誇る花々。ラグナマリーナは緑の植栽にも力を入れ、シーマンのみならず広く市民にくつろげる景観を提供している

Rescue Boats



〈SAUVEUR〉(トヨタ・ポーター28)

主に大型艇の牽引などにはパワフルな〈SAUVEUR〉の出番となる。ちなみにSAUVEURとは仏語で救世主のこと



〈LAGUNA 2〉(ヤマハUF-26CC)

小型艇の牽引や、軽微なトラブルの場合は、常時係留されている〈LAGUNA 2〉の担当。作業性の高さが自慢のセンターコンソールだ



〈LAGUNA 2〉のトップには大きなレーダーアンテナと回転灯、サーチライト、拡声器が。レスキュー艇ならではの装備

に、季節によっては強い風が吹く。さらに深いところでも15メートルほどと水深が浅いために、乗り上げ事故が多いという点が地域的な特徴として挙げられる。シーズン前点検の奨励などオーナーに向けての啓蒙活動が功を奏してか、近年、出動回数は減ってきてい

るというが、それでも月に1度の割合でROCからの要請があるとのこと。

通常、レスキュー作業は経験豊富なスタッフを中心に2~3名でチームを組んで行う。レスキュー艇には〈LAGUNA 2〉(ヤマハUF-26CC)と〈SAUVEUR〉(トヨタ・ポーター

28)が用意される。大抵は軽微なトラブルが多いため、常時係留されている前者の出動が主となるが、状況によっては2艇伴っての出動も可能。三河湾の安全のために万全の体制が取られているのである。